医療タイムス　1994年（平成6年）9月20日（火曜日）

新生病院口腔外科・北村医長に聞く

嚢胞性疾患に腸骨移植手術

＝在宅歯科にも強い意欲＝

㈱新生病院（一五八床・上高井郡小布施町）が四月一日付で開設した歯科口腔外科は、六月十日から本格的に診療を開始し三カ月を経過した。北村豊医長にこれまでの活動状況を聞いた。

―現在までの外来状況は？

「一日一五～二〇人ほどで、半数以上が紹介です。地元小布施町や須坂市、中野市、木島平村など周辺が主ですが、松本市、佐久市、飯田市からの紹介もありました。外来以外に入院の一般歯科と急患の対応を受け持っています」

―どのような症例がみられましたか？

「炎症、外傷、腫瘍をはじめ舌痛症や口腔真菌症も多いです」

―入院患者の手術例は？

「手術は六月以来六～七例行い、徐々に増加しつつあります。顎堤が痩せ義歯不適合となった高齢者に対する補綴前外科として、顎堤形成術を数例。嚢胞性疾患の処置では、腸骨の海綿骨骨髄移植を行いました。従来の開窓療法よりも速く骨が形成されます。この他に習慣性の顎関節脱臼に対する側頭腱膜短縮術を予定しています」

―珍しい症例は？

「おとがい下部の勃起性血管腫の手術を行う予定です。咬筋部のものは少なくないが、おとがい下部は珍しい。患者はこれまでに他の病院で二度手術を受けたが治癒せず、当院に紹介された一〇代の女の子です。精神的苦痛も大きかったことでしょう。当科の存在が役立てば嬉しく思います」

―外科、形成外科と技術的に共通する点も多いですね。

「私自身、医局時代に近畿大形成外科学教室に短期留学し、この経験がとても役立っています」

―今後の抱負を聞かせてください。

「通常の口腔外科の診療とは別に、在宅歯科に力を入れていきたい。これまでもしばしば内科の先生と一緒に往診し、歯科指導をしてきました。末期がん患者への訪問指導は今も強く印象に残っています。またこの地域には有病高齢者も多く、病院歯科口腔外科の果たす役割は一般歯科とはおのずと異なると思います。地域の医師・歯科医師と連携をとりつつ診療に当たっていきたいと思います」

北村　豊氏（きたむら・ゆたか）　昭和二十三年生まれ、四十五歳。奈良県出身。五十年神奈川歯大卒業。同年四月から松本歯大口腔外科第一講座に勤務、六十三年助教授に昇任し今年三月まで勤めた。